

「人はうわべを見るが、主は心を見る」

ダビデの生涯 I

サムエル記第一 16章 1+～23節

はじめに

イスラエル最初の王になったサウルは、二度目の失敗を犯し、サムエルから「あなたが主のことばを退けたので、主もあなたをイスラエルの王位から退けた」と言い渡されました。主は次の王候補にダビデをお選びになりました。

中心聖句「彼の容姿や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る」(7)。

1 ダビデの選び(1-13)。

(1) あなたをエッセイのところに遣わす(1)。

主はサムエルに「いつまであなたはサウルのことばで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たして行け。あなたをベツレヘム人エッセイのところに遣わす。わたしは彼の息子たちの中に、わたしのために、王を見つけたから」と言われました(1)。

エッセイは、ボアズとルツの孫です。神様は、不思議にも異邦人ルツの孫の子の中に、イスラエルの二代目の王を見つけたのです。

サムエルはエッセイの家に行き、息子を紹介して貰いました。神様の選んだ王を見つけるためでした。サムエルは、長男のエリアブを見て、「確かに、主の前で油を注がれる者だ」と思いました。しかし、主は違うと言われました。

サムエルでさえも、見間違えるほど、エリアブはそれに相応しいと思えたのでしょう。

この時、主は、貴重なことをお教えになりました。

(2) 人はうわべを見るが、主は心を見る(7)。

サムエルの判断は、どこがいけなかったのでしょうか。それは、彼がエリアブの容姿や背の高さ、つまり「うわべ」で判断しようとしたからです。

例話：竹内一郎という人が「人は見た目が9割」という本を書き、ベストセラーになりました。確かにその通りだと思います。男は可愛い女の子を求め、女はイケメンに引かれます。中年が整形に走り、親は子どもをお人形のように着飾ります。現代は、まさに「見た目9割」の支配する時代です。本も「文字だけ」よりも「文字と絵を組み合わせた」漫画のほうが売れるそうです。

うわべは、人の世界では大切です。人に快な気持ちを与えることは良くないことです。私などのように年を取ると、「じじむさい」ことに気をつけるように言われます。髪形、服装、体臭、仕草、言い方など、自分では気が付かなくても、年のせいでも人に不快感を与えることがあります。

そうした中で、神様が登場します。神様は「わたしは、人が見るようには見ないからだ」「人はうわべを見るが、主は心を見る」と言われます。

神様は、「心を見る」のです。

(3) ダビデの選び (11-13)

ダビデは、サムエルが来たとき、ダビデは父の羊の番をしていて、その場にいませんでした。7人に面接しても見つからないサムエルは、もう一人いることを知ると、「その子を連れて来なさい」と命じます。

ダビデも見た目は決して悪い方ではありません。「血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった」とあります(12)。しかし、心を見られる主は、「さあ、この者に油を注げ。この者がそれだ」と言われました。

サムエルは、エッセイや兄弟たちの真ん中でダビデに油を注ぎました。これは、まだ公式な即位式ではありません。神に選ばれたことの、私的は儀式でした。

しかし、この時から、主の霊が激しくダビデの上に下りました。

2 サウルに仕える (14-23)。

(1) 主の霊はサウルを離れ、主からの、わざわざの霊が彼をおびえさせた (14)。

以後のサウル王の行動は不安定になります。「おびえる」ということから見ると、精神的な不安がサウルを襲ったのでしょう。見かねた家

来たちは「じょうずに琴をひく者」を推薦しました（16）

（2）琴がじょうずで勇士であり、戦士であったダビデ（18）。

ダビデは琴がじょうずでした。ですから、後にたくさんの詩篇を作り、聖歌隊も編成しました。

彼は「ことばに分別があり」と言われるように、賢い人と認められていました。そして何よりも「主がこの人とともにおられます」と言われるように、信仰の厚い、主に祝福されていた人でした。

（3）ダビデはサウルに仕えた（21）。

サウルの求めにエッサイが応じたので、ダビデはサウルの仕えるようになりました。

サウルはダビデを非常に愛しました。ダビデはサウルの「道具持ち」として、サウルの近くで仕えたのです。

そして、サウルが落ち込み、苦しむと、ダビデは立琴をひきました。それを聞くとサウロは元気を回復し、良くなりました。

結論

今朝は、ダビデが神様に選ばれたことと、サウル王に仕えるようになったことを学びました。その選びにおいては、「主は心を見る」と言われました。主は、どのような心を見られるのでしょうか。それは、主を信じる心、主に従う心です。神様に用いられるのは、その人の外見ではありません。その人の心です。

あなたは、主を信じ、主に信頼していますか。どんなことでも主に従っていかうと思っていますか。姿形がいいとか、頭がいいとか、能力があるとかではありません。信仰があるか、従順であるかです。主は、心を見られるからです。

最後に、主のみことばを開きましょう。歴代誌第二 16 章9節です。「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心のご自分と全く一つになっている人々に御力を現わしてくださるのです」。

外見ではない、心を見られる神の前に、何も飾らずに、平安な気持ちで出られる者になりましょう。そのためには、神様への信頼と、従順が必要なのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン。